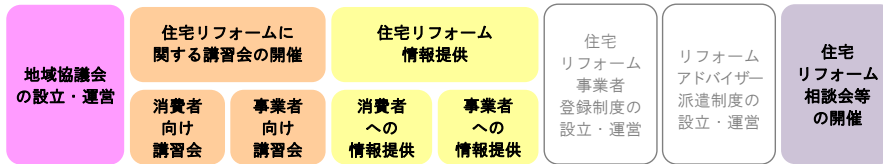


一般財団法人 岩手県建築住宅センター

03. ゆとりある住まいづくり推進キャンペーンいわて実行委員会



地域協議会の設立・運営

◆運営・体制

地域住宅リフォーム推進事業は、県や建築・住宅関連団体、消費者団体等で構成されている一般財団法人岩手県建築住宅センターを事務局として、「ゆとりある住まいづくり推進キャンペーンいわて実行委員会」（平成18年7月24日設立）によって運営されている。

◆相談窓口の運営・体制

地域協議会事務局の住宅相談コーナーで定期相談会を開催した。
建築士、宅地建物取引士、弁護士、税理士、土地家屋調査士、金融機関、高齢者向け住宅リフォーム相談員、耐震診断士、ファイナンシャルプランナーの各専門家と連携した。

住宅リフォームに関する講習会の開催（消費者向け）

◆リ推協企画の講習会の開催

消費者向け「住宅リフォームセミナー」を平成29年1月23日に盛岡市（いわて県民情報交流センター「アイーナ」）にて開催、29名が参加した。
広報は岩手日報に掲載したほか、住宅相談コーナーメルマガも配信した。



講習会の様子

◆独自企画による講習会の開催

2回にわたる「古民家改修ワークショップ」と「女子限定！リノベプロジェクト『丘の家編』」を開催した。平成28年9月16～18日に行った第1回「古民家改修ワークショップ@紫波」では、「はくらの手で、あったかっこいい家に」と題し、3日間で古民家に断熱材を配して実際に改修する体験講習を行った。12月3～4日の第2回古民家改修ワークショップでは、同じく紫波町にて、別な古民家の断熱改修を実際に行った。天井・壁の断熱付加、床の目張りりと断熱、開口部への内窓設置、壁塗り等を体験。いずれも、建築家（東北芸術工科大学教授）と県内リノベーション事業者が講師として参加する公民連携で行った。参加者は定員を超え、大好評であった。

また、1月8・13日に盛岡市にて開催した「女子限定！リノベプロジェクト『丘の家編』」も定員を超えて女子プレーヤー16名、男子マネージャー6名、講師3名の参加となった。民間空家のリノベーションプランを提案するとともに、女性の育児世代のM字カーブ問題の解決に資するリノベーション及びまちづくりを研究するなどした。



講習会の様子



講習会の案内

住宅リフォームに関する講習会の開催（事業者向け）

◆リ推協企画の講習会の開催

住宅の「長寿命化リフォーム」セミナーを平成28年12月9日に盛岡市（いわて県民情報交流センター「アイーナ」）にて開催。参加者55名と盛況であった。開催についてメルマガやチラシの配布、岩手日報への掲載を行った。



講習会の様子

住宅リフォーム情報提供（消費者・事業者への情報提供）

◆資料の配布・情報提供

地域協議会の住宅相談コーナーにおいて、提供・閲覧を行った。
平成28年10月29～30日に一関市で開催された「住宅祭」にて、展示ブースを出展し、資料を配布した。また、事業者にも向け、資料の配布とともに、ホームページでの情報発信を行った。



イベントの案内

◆小・中学生を対象とした耐震授業の開催

過去の地震被害状況からの学習により、木造住宅の耐震化の重要性や、地域の安全安心への認識を深め、地震に強い住宅を造るためには何が必要なのか、今自分が住んでいる住宅や地域の安全性を高めるにはどうすれば良いのか、簡単な耐震診断の学習を通して理解を深めるものとし、これらの学習を通じて、次世代を担う子供たちへの防災意識の継承を図ることを目的として、小・中学生を対象に「世代をつなぐ防災・住まいの耐震授業」を岩手県の協力を得て、全6校を対象に実施し児童137名が参加した。

地震について、建築士の仕事についての講義のあと、梁を実際に持ち上げてみる体験、筋交いの有無、補強壁の有無での揺れ方の違いの体験等、子どもたちが身を持って耐震対策を感じられる実験を行った。



実物大梁の持ち上げ体験



実物大筋交い補強体験



小型模型への補強壁の取付実験

住宅リフォーム相談会等の開催

◆定期住宅相談会

住まいに関する相談に無料で一級建築士が対応。地域協議会事務局（盛岡市）にて、平成28年8月から平成29年2月にかけて、毎月日曜日の午後1時～5時に定期住宅相談会を開催。プライバシーに配慮し、中立・公平な立場からアドバイスする。20件ほどのリフォームに関する相談があった。

◆台風による住宅修繕等相談員派遣及び相談会開催

平成28年10～11月にかけて、台風10号による被害のあった岩泉町において、住宅等の修繕の調査、相談にあたるため、相談員を派遣した。また、岩泉町において相談会を実施した。調査作業としては、2人一組となり、調査の希望があった家屋に伺い、被災住宅の間取り調査、現況写真、家屋傾き確認、基礎洗掘状況の確認を行った。被災状況としては、浸水や破損、基礎洗掘の他、建具が流されたりしており、浸水により家屋が全壊し、今後再建の場合、盛土が必要であるとアドバイスした事例もあった。